

MARGARET THATCHER

CONTENTS

サッチャーさんと
『りぶる』読者との
懇談会・全記録

8p

サッチャーは
イギリスを
こう変えた

17p

英国労働者に
働き甲斐を
もたらした

NMUK

21p

今なおその波紋は
広がっている

24p

ジョン・ブル魂
健在なり

27p

今世界は南北朝鮮、バルト三国など7か国の国際連合加盟、米ソ両首脳の大規模削減発表など、まさに新世界秩序へ向けて大きく動いています。こうした世界情勢の中で、私たちはサッチャー女史を日本に迎え、彼女の全人格に直接ふれ、女性としての生き方を学ぶことができました。今回のサッチャー特集では、『りぶる』読者との懇談会、英国取材などにより、サッチャー女史の偉大な貢献をさらに検証してみました。

執筆／東 洋恵

世界を駆ける
サッチャーの想い

Part 1 サッチャーさんと 『りぶる』読者との 懇談会・全記録

九月七日早朝

サッチャーさんと『りぶる』読者との懇談会が都内のホテルで開かれました。政治に関心の高い女性だけの懇談会とあって質問内容も女性としての生き方や家庭との両立から国際状況にまで発展していききました。サッチャーさんは、連日のハード・スケジュールにもかかわらず参加者の質問に対してにこやかにしかも丁寧な答えられ、その真摯な態度に参加者はあらためてサッチャーさんの偉大さに敬服。まさに、この日は感動的な出会いとなりました。

〈懇談会参加者〉

- コーディネーター 大宅映子
- 自由民主党婦人部代表
- ドンネ・リベレ(女性経営者団体)代表



サーモン・ピンクのスーツ姿でにこやかに



浜田幸一
自由民主党広報委員長
主催者挨拶
自由主義陣営
繁栄のために
今後もご活躍を



サッチャー英国前首相
挨拶
女性は自分の意見をもっと上手に表現したいですね

よい家政婦に 支えてもらい、 後顧の憂いなし

大宅映子さん●まず最初に、女性の話題から入りたいと思います。私自身、「女だから」、「男だから」という言い方は好きではないのですが、実際に私たちは女であって、男ではないわけです。しかし、人間は、性別による違い

よりも、資質の違いを問われるべきなのではないでしょうか。
サッチャーさん●その通りだと思います。政治の世界では、女性が最初に公務次官に登用されるのは、たいがい福祉部門です。私たちはこういう風習は打破しなければなりません。私が最初年金国民保険省政務次官になりました。社会保障は政治との絡みが多いため、この分野に精通することは、女性に適した仕事でもありました。



懇談会は大宅映子さんのコーディネートで進められた

サッチャーさんにお会いして 神奈川県連婦人部長 小島武子（六八歳）

テレビなどで拝見する英国前首相サッチャーさんは、たいへん親しみやすいお方であるという印象でした。
しかし、世界の中でも偉大な女性に実際に会えたとき、本当に感激でいっぱいでした。

感謝しながら会話の一言一句を傾聴しましたが、サッチャーさんのお言葉には実感が込められて非常に理解しやすく、

まさに二一世紀の軌道を敷く大政治家の感を深くしました。
今、社会主義思想が根底から崩れ落ち、世界が大きく揺れ動き、自由民主主義の到達目標がピッチを上げて進んでいます。そうした状況の中、英国が議会制民主主義を政治目標にし、勇断を持って政権を担当されたサッチャーさんを目の当たりにして、その風格に圧倒されました。また、一言一句には力強さがあり、まことに説得されるがごとく映るのは私だけではないでしょう。更なるご指導を願ってやみません。

次は教育相になりました。しかし、私の関心は科学と財政にありました。
そこで、私は機会あるごとに、女性

は外交、財政、防衛問題にも関心を持つていることを発言しました。
これらの領域は生活に影響しますし、私たちは男性、女性として生きているのではなく、家族の一員として生活しているからです。政治の全領域に女性は男性と同様に関心を抱いているのです。

（以下、質問は大宅映子さん）サッチャーさんは、政治家になられたときから、妻であり、母であつたわけですから、家庭と仕事を両立させる上でどんな困難がありましたか。

（以下、答はサッチャーさん）生活の仕方を計画的にこなして行けば、お考えになるほど大変ではありません。政治の世界に生きる場合には、ときばきと家事を処理し、素早く決断することが肝心です。

率直に言って、育児については普通のお母さんようにはいきません。特

に小さな子供がいる場合（私が議員になったときに子供たちは六歳でした）、たとえば、自宅が英国の北部や西部にあり、月曜日にロンドンに向かい、金曜日の夜遅く帰宅するような生活では、十分な育児はできませんし、子供に済まないという気持ちになるでしょう。
ただ私の場合には、幸運にも主人の職場、選挙区、議会、これらすべてがロンドンにあつたということです。
いずれにせよ、小さな子供を持つ女性が政界に進出する場合には、育児が大きな制約条件になります。
——その制約条件をどのように克服されたのですか。

家庭内に優秀な私設秘書を自分のお金で雇い、また、信頼できる家政婦に子供を託すことです。何か緊急事態の場合は言うに及ばず、日常の生活のちよつとしたことのためにも、信頼できる有能な、そして家族同様な人の助けが必要です。

私の場合は、優れた助けを得ることができ、その上、国会の近くに自宅が

ありました。何かがあれば、すぐに帰宅することができました。私も子供たちもそのことがよく分かっていて、これが大きな心の支えになりました。

また、母親として子供と一緒にいる時間が必要です。私の場合子供が寝つく前、五時半か、六時頃、夕食のときに帰宅して、子供に接することはそう難しくありませんでした。週末や、議会の長い夏休みの間は、子供と一緒に過ごしていました。

「女性は話下手を克服することが義務ですね」と語るサッチャーさん

サッチャーさんにお会いして

愛知県連婦人局長
平岩和子（六八歳）

世界の国々にさまざまな話題を提供され、人々の視線を集めておられるサッチャーさんに「グッドモーニング」と握手をしていただいたときは、胸の鼓動が止まりそうでした。当日の出席者は前列に私たち党婦人部七名、後列に女性経営者組織ドンネ・リベレ代表八名、自由民主党代表の浜田幸一広報委員長、コーディネーターの大宅映子さんなど約二〇名程で、目と鼻の先に着席されたサッチャーさんを真正面から拝見し、美しさに圧倒されたため息が出るほどでした。鉄の女と言われてきたサッチャーさんですが、女性ばかりの席であつたためか、たいへんご機嫌がよろしい様子で、世界の話題、政治家としての話に加え、ご主人、お子さん、お孫さんの話題を聞くことができました。

女性としてのサッチャーさんをしつかりと見据えさせていただき、うれしい一時間一五分でした。才色兼備という言葉はこの人のためにあると強く思いました。





映像メディアがクーデターを阻止したのです

—— 私たちは今、国際関係に興味があります。劇的な歴史の転換の真ただ中にいることを実感しています。新世界秩序はどのような力を発揮できるのでしょうか。

新世界秩序というのは新しい言葉でも新しい理想でもありません。第一次大戦後に国際連盟が生まれたとき、それは新しい世界秩序、新しい理想だと考えられましたが、実際には力を発揮することができず、第二次大戦を迎え

てしまいました。そして第二次大戦後に設立されたのが国際連合です。

では現在、何か変わったことがあるでしょうか。私は一つ重要な変化があり、それが私たちに新たな希望を与えていると思います。

それは映像メディア、つまりテレビです。テレビは世界中で起きていることをそのまま世界中に伝えてくれます。「このクーデターには反対だ」「もう独裁者は許さない」と立ち上がったロシア、ルーマニア、東ドイツ、チェコスロバキアの人々の姿を、世界中の人々が見ています。

もちろんテレビがすべての問題を解決しているわけではありません。テレビがユーゴスラビアの悲惨な事態を伝えていても、国際連合がユーゴスラビアの国内問題だという場合には、私たちは何もできないのです。新世界秩序



映像メディアは世界の人々に新たな力を与えていた……

—— アメリカは、世界で唯一の超大国となるわけですね。

まさにアメリカは世界で唯一の超大国です。ソ連はまだ中核的な軍隊を連邦が握っています。しかし当分、アメリカは世界で唯一の超大国でいるでしょう。これは良いことです。超大国が自由社会の手のうちにあるからです。アメリカのような国がその役割を引き受けてくれることは、有り難いことです。しかし私たちもそれぞれの役割を分担せねばなりません。日本が再び軍事大国になることを誰も望んでいません。日本が出来る方法で貢献すれば良いのです。

地方自治を地域の人々に戻したのです

—— サッチャーさんが大改革をされた

サッチャーさんにお会いして

福岡県連婦人部長

和田洋子（五〇歳）

懇談会の当日、一同緊張の中、サッチャーさんが入ってこられました。ミルクピンクのスーツ、素晴らしい笑顔で「グッ、モーニング」と声をかけ、一人ひとりと握手され、会場は一瞬にして和やかな雰囲気になりました。これにより、場内はいやがおうにもサッチャーさんに集中することになりました。

「二〇世紀後半の英国を立て直すのが私の使命」という強い意志と行動力で大英

地方行政改革についてお伺いしたいのですが、なぜ地方自治の大改革をなさったのですか。（以下、懇談参加者との質疑応答）

一九七〇年から一九七四年までの保守党政権時代に、私たちは地方自治制度の改正を行いました。

わが国には歴史の古い大きな町が多くあります。それらの町には自分たちの町を管轄する町議会がありましたが、その上部に複数の町にまたがる広域自治体を創設したのです。このシステムによって、町どうしの協力が促進され、と考えたのですが、これは誤りでした。実際には、行政の上にもう一つ行政を上乗せしたに過ぎなかったのです。

その結果、町議会が従来から持っていた地区計画に関する権限以外に、広域自治体の市議会も管轄権を求めてきたのです。そして、両者の間には対立の要素も出てきました。そこで最終的には、都市地域の広域自治体を廃止することにしました。それらの市議会、は、政治的な活動やプロパガンダに終

サッチャーさんにお会いして

石川県連婦人部長

枝畑一枝（六七歳）

私は、サッチャーさんの次のお話に非常に感銘を受けました。

「女だから、男だから、この言葉はまったく私の生涯の生き方の中に存在しない。女の政治家だから、首相だから、もつと女のために何かをやってくれると、自国の女の期待もあつただろうし、世界の人たちも女のために何をするのかとの注視もあつただろう。しかし私は、一人

は、概念として持っているだけでは十分ではありません。それを実行に移す実際的手段が必要です。

しかしテレビは、市民に多くの力をもたらすようになりました。今年五月初め、私はソ連で今回のクーデターの首謀者の一人であるヤゾフ（当時国防相）に言いました。「軍事

クーデターの噂があるが、成功しないと思う。次々に押し寄せる決死の市民の波を、

どんな戦車も弾丸も止めることはできないでしょう。こうした状況を人々はテレビで見えています。これは非常に強力な新しい要素です。普通の市民にきわめて有利な大きな力を与えるものです。

—— それでは、ソ連が今日のような変革をする、中国はどうなるのでしょうか。心配ですが。

ソ連の改革は中国にも影響するでしょう。私は究極的には影響すると思います。

始し、行政実務をほとんど行っていないで、行政は、人々に近い地域の自治体の方がうまく処理できるのです。

そして、単一の行政機構で人々が望むあらゆるサービスを行うほうが都合が良いことが分かってきました。交通や、幹線道路などの問題は、いずれにせよ中央官庁が取り組まざるを得ないことです。道路などの実際の維持は、中央政府の業務代行の形で、地方自治が担当します。ですから私たちが行った改革は、地方自治体を人々の生活のそばに戻すことだったのです。

—— 日本でも、東京と地方、あるいは中央官庁と地方自治体でさまざまな問題を抱えています。首都ロンドンでの行政改革はいかがだったのでしょうか。

ロンドンでも改革を実施しました。広域自治体である大ロンドン市庁議会、は、ほとんどの時間を国政の討議に費やし、人々の生活に関係ある問題に取り組んでいなかったのです。

そこで、大ロンドン市庁議会を廃止しました。ロンドンのイメージは、シテイ、わが国の偉大な金融センターであるシテイ・オブ・ロンドンによって保たれています。小ロンドン市は八〇〇年を超える歴史を持ち、市の行政も同様に古く、世界がロンドンと考えているのは、この小ロンドン市なのです。その隣はウエストミンスター区です。ここもきわめて強力で、効率の良い組織で、ロンドン中心部の大半の行政を管轄しています。

大ロンドン市を廃止したほうが、ずっとうまくいっています。協調が必要になれば、個々の自治体の議会が調整

の政治家として、当然ながら全力で十一年間、首相としての最大の運と実力を信念にして生きてきた。たまたま、私は女であつただけで、政治家として、双子の子どもたちには嫉妬は温かく、母親として、時には厳しく目を光らせた。家庭は本能的には守るべき大切な塔である。政治家と主婦との二つの道を、合わせて完走できたのは家族同様の家政婦に恵まれ、私を支えてくれたからだ」

私はこれらの言葉を今後の座右の銘にし、折にふれて思い出したいと思っています。

います。中国は政治改革を拒み、経済改革を優先しました。この中国のやり方は、西側の経済システム導入の有利な結果が先に出て来るので、非常に上手な方法かも知れません。その後で政治制度改革が追加のボーナスとして出て来るわけでしょう。中国でも民主主義の到来を阻止することは不可能でしょう。しかし、中国は当面現在の政策をやり通すでしょう。天安門事件で見られるように、老幹部から若い世代へ権力が移るまでは、民主主義の時代はやって来ないでしょう。私たちは、ソ連に対したように、将来は中国の若い世代の指導者と対話しなければなりません。それはすでに始まっているとも言えます。



大宅淑子さんと記念撮影

に取り組めば良いのです。

—— サッチャーさんの進められた国営企業の民営化の成果についてお聞かせ下さい。

国家が企業を所有している限り、能力の向上、迅速な決定は望むべくもありません。なぜなら、常に国の財政を顧みなければならぬからです。そして当然ながら、国営企業は大型投資についても、自ら決定を下すことができません。資金は納税者が支払うのですから。競合する諸条件とあわせて検討しなければならぬのです。

国営企業は効率が悪く、これだけ赤字が出たから埋めてくれというのです。こういう次第ですから、四四の国営企業を民営化しました。もう民営化の予定はあまり残っていません。民営化された企業は、赤字から黒字体質に転換しました。必要以上の従業員は減らしました。民営化を実施したとき、一定数の株式を残して、有利な価格で従業員に売却する措置も取りました。

私はつねに自分の能力の限界まで働いてきました

—— 社会人から政治家へ、さらに首相へと、その道のりは決してたやすいものではなかったでしょうね。

首相になるまでには、やるべきことが山ほどありました。まず、議員になったとき、私は何事であれ、能力の限



サッチャーさんにお会いして
熊本県連婦人部長
荒木敏子（六〇歳）

サッチャーさんに自由に質問のことがありましたが、頭の中はしばらく真白い状態でした。

限られた時間のお話の中で、特に鮮明に残っていることは「原理原則を踏まえ、与えられた機会をぎりぎりまで使い、そのときどきの能力の限界まで努力したい」。そして「在任中私個人を嫌いな人はたくさんいたであろう。しかし私が決断し、実行したことに対してはすべて英国民の評価を受けている」。

なんと自信に満ちあふれ、美しく輝いて聞こえる言葉でしょう。自信を持って自ら決断し、迅速に実行することがリーダーに求められる最大のものであることを痛感しました。さらに「社会の単位は家庭にある」というサッチャーさんの言葉も感銘しました。

世界をリードし、英国病を克服されたサッチャーさんも一人の主婦、私も一主婦として家庭を大事にし、これからも婦人部の活動を続けたいと思っています。

首相を辞めて ほっとなんか していません

——サッチャーさんは、十一年間の首相の座を引退され、ほっと肩の荷を降ろされているのではないのでしょうか。

とんでもない。私は楽しんで首相の仕事をしていました。私は生きていくこと、責任を負っていることを楽

彼と私は、あらゆる原則と政策全体の見直しを始めました。彼が保守党の党首選挙に出馬すれば勝つという確信はありましたが、彼は一身上の都合から出馬できないと言ったのです。

そこで直ちに私は自分が出馬すると言いました。多くの外国大使が、一九七五年の保守党の党首選で英国に女性党首が誕生することはないだろうと、本国に報告したことでしょう。しかし、彼らの予想に反して、私が党首に選出されたわけです。

おりですが、今後は当地でやっているような講演活動を続けたいと思っています。そのほかには、これまでの政治生活の全記録の執筆も考えています。

——マーガレット・サッチャー財団の設立が予定されているようですが、どんな財団をお考えでしょうか。

確かにマーガレット・サッチャー財団の設立を予定しています。この財団は、前向きで常に今日的な視点を持ち、自由を支持し、私有財産、自由企業の必要性を訴えて行きます。

大学やマスコミには左翼的な人がいます。彼らは私たちの味方よりも多く、常に自分たちの政策について語っています。

ところが、私たちは自分たちの政策について余り語らず、十分な宣伝もしていません。だから、この財団を通して、共産主義を批判し、独裁政治に反

界まで働きました。私がかむしやりに働いたのも、そうすることが好きだったからです。選挙区の面倒を見、国会報告を行いました。

当選から約二年目の一九六一年に政務次官になりました。それから、首相の座を降りるまで、ずっと政府・党の要職にありました。保守党が野党のときは影の内閣のメンバーでした。

したがって、私は政界入りしてから三二年の内、二九年間は中枢にいたわけて、ほとんどの省庁を担当し、能力を発揮してきました。

そして一九七〇年に保守党政権が復したとき、私は教育大臣に就任しました。当時の私は、閣僚になったことで得意の絶頂にありました。しかしその頃、首相になるなどということは夢にも考えませんでした。私は女性が首相になることは、わが国の伝統ではあり得ないと考えていました。

一方、当時人々は党の指導者を選挙で選ぶことを望んでいました。私が立候補して欲しいと思っていた人は、サー・キース・ジョゼフ氏でした。一九七四年の選挙で保守党が敗北してから、

しんでいます。勇気ある決断をし、自分が正しいと思った方向に進んできました。そうすることで、わが国ばかりでなく、広く世界に貢献することができたのです。しかし、十一年半も経つと、次の世代が現れてくるものです。

ただ、一つ申し上げておきたいことは、正しいことをしていると、人氣が落ちることもあるのです。議会で活動



女性経営者の会「ドンネ・リベレ」の代表と

サッチャーさんにお会いして
東京都連八王子支部婦人部長
山田いと子（六八歳）

今回、「りぶる」の企画でサッチャーさんにお会いする機会をいただき、感激であり幸甚なことでした。

サッチャーさんは英国初の女性首相として十一年間にわたり、内政・外交ともに手腕を奮われた力量に「鉄の女」と称されています。どんな方かと胸をときめかせてお迎えをしました。日本流に言えば、丑年生まれの六五歳とのことですが、

する議員たちにもいつも人氣があるとしたら、正しいことをしていないのではないのでしょうか。正しいことをしていると、他の議員たちがいらいるものなのです。しかし、考えてみると、彼らは変革を望み、私の後継者を手に入れたのです。誰か他の人に責任を持ってもらい、その人たちが政策で応援するというのもなかなか良いことですよ。

——首相辞職後も、精力的に各国を訪問されていますが、今後やはり世界を舞台に活動されますか。

私はまだ自分が影響力を持っていることを痛感しています。ゴルバチョフ大統領、ポポフ・モスクワ市長、エリツィン・ロシア共和国大統領、カザフ共和国大統領などにも会いましたし、皆さんの首相、元首相、財界人にも会いました。ブッシュ大統領にも会う予定です。日本からの帰り道には、中国香港、ブルネイ、サウジアラビアにも行きます。そして、一〇月にはポーランドと米国に行きます。

もちろん、国内での活動も今までど

かつてベストドレッサーに選ばれただけあって、センスの良いスーツの装いで、若々しく美しい、優雅で魅力あふれる方でした。

女であることを意識しないとおっしゃっていましたが、この素晴らしい魅力は彼女の武器として、天性の資質と知性に加えて大きく役立ったことを感じました。ご家族のことにお話が及ぶときの優しい表情に、妻、母としての共感が一層の親しみを覚ええました。短い時間でしたが、貴重なひとときでした。



自民党婦人部代表に迎えたサッチャーさん

対するために、あらゆる国で、自由主義の骨格を作り上げる手助けをします。具体的にはアドバイザーの派遣、現地スタッフの訓練、そのための補助金の交渉、ときには私たち自身の資金を使うこともあるでしょう。

こういう仕事のために私たちは財団の創設を考え、そのための資金を願っています。

この財団は、この他にも、環境、教育、家族の問題にも積極的に取り組んで行きます。

会津特産の「赤ペコ」に「オー・ワンダフル」





地方政治改革の象徴、元大ロンドン市庁舎

Part 2 サッチャー改革 現地レポート

事態に即応して チャンスを生かすのです

——政治家へのきっかけになったエピソードがありましたら、お聞かせ下さい。
私が政治の道を選んだのは、子供の頃からずっと政治に魅力を感じていたからです。もともと私は科学者であり、会社で研究者として活動していました。その後法律家にもなり、特許法を扱いたいと思っていました。そのためには、どちらの資格も必要でした。ところが結局、金融法を学んだところで法律の勉強は終わりにしました。
つまり、私は政界に入ったのです。政治に非常に関心を抱いていたし、他の経験も積んでいました。
エピソードといえるものは特別ありませんが、オックスフォードの学生であったときに、男子学生たちが「僕は首相になるんだ」と言っていたのを覚えています。



「チャンスを見逃がさず、勇気を持つことが大切」

えています。私は、「本当、それは面白いでしょうね」と答えていました。
——リーダーはつねに決断を迫られていると思いますが、サッチャーさんは自分の決断に思い悩まれたことはありますか。
そういうことはありません。もし大きな問題に直面したら、なぜ、そう考えたかを分析します。私は科学者であり、法律家でもあります。何が起ったのか、何が間違ったのか、何が原因だったのか。この分析をできるだけ早く行ない、ケース・バイ・ケースでその場に専門家を一人か二人加えることもありました。

そうすれば、大概の問題は、探るべき道が二つか三つ見つかるはずで探るべき方策が無限にあるわけではありませぬ。政治は選択の問題です。ビジネスもそうでしょう。二つか三つの案に絞り込むことができれば、どれを選択するか決めるのはずっと楽になります。これは論理の問題であると同時

サッチャーさんにお会いして

岐阜県連婦人部常任相談役
野田聖子（三二歳）



京人形の繊細な美しさに魅せられた様子

サッチャーさんは、私の最も尊敬する政治家であり、彼女が首相を辞任したことは私にとっても非常にショックな出来事であったのです。その後、落胆しておられるのでは？ というのが率直な私の思いでした。しかし九月七日、帝国ホテルでお目にかかったサッチャーさんは、以前と変わらず、気高く、自ら絶大な自信を感じさせるスピーチに、私の心

に、判断力の問題になります。このようにして決定を下すのです。
——日本にも女性議員、大臣がすでに登場していますが、女性首相はまだ誕生していません。女性議員にアドバイスをお願いします。

どんな仕事であれ一生懸命働き、チャンスが訪れたらそれを利用することです。どんな職業でも、梯子の一番下から一足飛びで一番上に上ることはあり得ません。

ですから、チャンスが来たら、それを利用することです。そのときは、速やかに決断しなければならぬことも

あるでしょう。

私の場合がその例です。キース氏が、「出馬するつもりはない」と述べたとき、私は自分が出ようと思いましたが、瞬間的にです。考える前に、言葉が出てしまったのです。そうすることが正しいと私が強く感じていたからに他なりません。

政治に限らず、どの分野でもチャンスをつかむことができない人が大勢います。絶対のチャンスが目を通り過ぎるのに、見逃しているのです。チャンスは二度と来ないのです。

ですから機会が来たら、勇気を持つてつかむことです。うまくつかんで下さい。皆さんの中から女性「首相」が誕生するかもしれません。でも、その方は女性首相ではなく、首相なのです。
——ありがとうございます。

撮影／藤井祥子

サッチャーは英国をこう変えた

偉大な政治家の業績はその政治理念が世界の人々の心の中に印象づけられると同時に生活の中にも明らかに変化が残っていくものです。サッチャリズムが、英国および世界各国に与えた衝撃は、すでに『りぶる』九月号、一〇月号で取り上げましたので今月号ではイギリスの草の根の自治体制度や市民生活の中にサッチャーさんのモニュメントがどう築かれているか、現地取材で紹介いたします。

地方政治改革、大ロンドン市を廃止

市と区の伝統的な関係

ロンドンのテムズ河畔、国会議事堂（ビッグベン）の対岸にひとときわ壮麗な建物があります。大ロンドン市庁舎だったところです。

実は大ロンドン市は、サッチャー政権が出現したあとも、労働党が支配していた、この市庁舎にはロンドンの失業者の数を書いた大横断幕がビッグベンに向けて、これ見よがしに掲げられていたのです。

なんとサッチャー首相は、五年前にこの大ロンドン市を廃止し、市庁舎は今売りに出されていますが、平成三年一〇月現在に至っても、まだ買い手がついていません。

イギリスでは、広域自治体である大ロンドン市と各区の間柄は、区が大ロンドン市の下部組織という上下関係ではなく、区は区、大ロンドン市は大ロ

住民に直結した自治体へ

ンドン市、という独立性の強い関係にあります。この両者は伝統的に独立した対等な関係ですから、施策についても、独自の判断で動きます。一例を挙げますと、国賓が英国を訪問したとき、たとえば二〇年前に昭和天皇がバックingham宮殿に泊まれたときは、大ロンドン市と地元ウエストミンスター区（シティ・オブ・ウエストミンスター）の代表が別々にそれぞれ表敬するといった具合です。

サッチャー首相は、この大ロンドン市や、同様な広域自治体であるマンチエスターといった大都市の行政機構と議会とはきれいなさっぱり「いらぬ」と考えました。つまり、父アルフレッドが故郷グランサムで市長を務めていたような住民に直結している自治体が



元大ロンドン市庁舎の向いにはビッグベンが建っている

あれば十分で、草の根の自治体と政府の中間にある組織は、税金の無駄遣いの温床に過ぎないというのです。

この地方版政治改革は、フォークランド戦争の勝利で、サッチャー人気が急上昇する中で始まり、一九八六年三月二日、ついに大ロンドン市の看板が降ろされました。現業部門を中心に業務の大半は、区に移管されましたが、ロンドンだけで地方公務員の定員は八〇〇〇人減り、一五〇億円の節減になったといえます。



地方に真の民主主義を

しかしサッチャー首相の地方改革はこれにとどまらせませんでした。彼女がむしろもっと大事だと考えていたのは、地方税制の改革でした。それまで地方税制は、固定資産税中心でしたから、資産階級が納めた税金で、住民全体が教育などのサービスを受ける図式でした。

これではいけない、住民全体が税金を払い、自治体の支出を自分たちの意志で考え管理しなければ、地方に本当の民主主義は育たないというのが彼女の信念でした。住民税中心への税制転換、いわゆる人頭税さきがこれです。彼女は、保守党内の慎重論や自治体の反対を強行突破して人頭税を実施、納税者の数は、これまでの三倍の三六〇〇万人となったのです。



ハイドパークのスピーカースコーナー。休日には議論好きな英国人が集う

しかし、広域自治体の廃止という地方行政改革は実行できたのですが、地方税制改革、つまり人頭税については、新たに税金を払うことになった国民の理解はいまひとつで、サッチャーさんがねらった効率的な地方政治改革が実を結ぶ前に、彼女は首相としての座を退いたのです。

駐車違反取締りも民間会社の手で

情け容赦なく違反キップが

イギリスでは、民間企業による路上駐車違反取締りがサッチャー首相のおひざもとで始まりました。お巡りさん顔まけの厳しさでパトロールし、警察が行っていたときよりも成果を上げています。これは国営企業の民営化と併せて、地方自治体業務の民間委託を進めてきたサッチャリズムの典型と言えます。

ロンドンの中心部を占めるウエストミンスター区。ここは議会、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院、劇場街、美術館、リージェント通りなどの繁華街、ハイド・パークなどの公園のほか、ビジネス活動も盛んなところ。区民一七万に対して昼間人口七五万人、旅行客は一日一〇〇万人を数えるだけに、区内の道路は常に満員状態。区当局としては、区民のための住みやすさを第一としながらも、イギリスの顔であるこの地域の活動をそぐ政策もとれません。

売りに出されていた由緒ある大ロンドン市庁舎は一時は日本の建設会社も参加したコンソーシアムが、ビジネスセンター兼ホテル、住宅として買取の話もありましたが、資金不足で破算となり、未だに買手がつかないまま、ロンドンっ子の話題となっています。

そこで道路の効率的利用を進めるために、区独自の駐車条例を作り、一九九〇年一月から区内の駐車規制区域内の路上違法駐車取締りに乗り出しました。この駐車政策の特徴は、規制を徹底的に厳しくしたほか、競争入札によって取締りを民間の駐車専門業者APCOAパーキング社に業務委託したことです。



まずは厳しい駐車規則の一例を紹介しましょう。駐車規制区域内の路上には駐車メーターがあります。空きメーターをやっと見つけて駐車。ポケットに入れたが、メーターに入れる小銭がない。あわてて両替のために車を離れる。これはもう立派に駐車違反で、直ちにパトロール中の民間の駐車監視員に違反キップを切られます。ウエストミンスター区駐車規則は、「駐車と同時に駐車料金を支払うこと」となっています。ウエストミンスター区で路上駐車をしようと思ったら、家を出る前に硬貨を用意することです。



(上)車からちょっと離れただけでも、監視員が飛んで来て、情け容赦なく違反キップを切る
(下)「1回の平均駐車時間が101分から69分に短縮された」と、APCOAパーキング社のキングスウェルさん

警察より成果を上げる

路上駐車は最長二時間が限度、超過すると違反キップです。「長時間駐車する場合は駐車場に入れない、路上駐車は短時間に限り、みんなで便利に使いたしよう」というのが取締りのねらいです。

区から業務委託を受けたAPCOAパーキング社は、全従業員二〇名のうち、常時一〇〇人が路上で監視に当たっています。彼らが発行する違反キップの数は一日平均二〇〇〇枚です。同社の路上駐車部長キングスウェル氏は、「我が社は厳しくやっていますから、一回の平均駐車時間は、従来の一〇一分から六九分に短縮。駐車メーター使用

率は八〇%減」と、その成果を強調していました。ウエストミンスター区当局も、民間委託の成果に満足しています。同区交通局次長ムーレイクラーク氏も、路上のメーター駐車の高回転率の向上、空きメーターが探しやすくなったことと同時に、「民間委託は競争入札のため、取締り効率が良しに、経費も安く、区の財政に大いに貢献している」と評価しています。

民間の駐車監視員の活動範囲は限られていて、駐車禁止区域や、駐車規制区域以外での違法駐車取締りや、車輛のクランプや撤去は、警察が担当しています。ウエストミンスター区が、民間委託で違法駐車締め出しに成果を上げたことから、他の自治体でもこの制度の採用に関心が集まっています。

ロンドンの美化も民営で

コール独首相も誉めた綺麗さ

かつてロンドンの都市ゴミは、特に週末の繁華街では市民や観光客のひんしゆくを買っていたものでした。それが、今年七月のロンドン・サミット後、ドイツのコール首相から、初舞台を踏んだイギリスのメージャー首相に寄せられたホスト役をねぎらう礼状の中に、ひと言添えられていました。「ロンドンはこのほかきれいになりましたね」これを一番喜んだのは、サミットの



道路清掃にはむスタッフ。いたるところにゴミ箱が設置されている

「ロンドンで働きたい会社のベスト10に選ばれた」とMRS環境サービス社のシアーさん



ゴミの収集を行うスタッフ

会場となったウエストミンスター区のゴミ収集と道路清掃を一手に引き受けている民間企業、MRS環境サービス社です。同社は、自治体の経費削減のためサッチャー政権が進めてきた民営化路線に沿う形で、ウエストミンスター区清掃局の幹部たちが作った脱サラ会社です。

新しい会社を作るに当たって、MRSが一番気遣ったのは、お役所仕事の非効率を持ち込まないことでした。ウエストミンスター区清掃局で管理部門に五〇人いた担当者を、新会社では七人に減らしました。若いスタッフが電話応対、物資購入、給与、人事まですべてをこなしています。新会社の方針は人数を減らして、高給を払うことです。

日本の労使関係に近い企業に

MRSでは、イギリス型の労働組合は認めていません。イギリスの組合は、何であれ問題解決に時間がかかり過ぎるというのが理由です。日本の労使関係に近い労使運営委員会を作り、毎月一回、ユニフォームから清掃車の整備に至るまで、何でも協議し、即決で処理に当り、効率を上げています。

民間企業が自治体から業務を受託するには、競争入札で勝ち、自治体と契約を結ぶことが必要です。良い仕事をしなければ次の契約が取れる保証はありません。しかし、清掃の仕事で一番こわいのは市民です。仕事の良し悪しがすぐ分かるからです。

MRSが創業して初めて迎えた一九八九年の夏は、異常な暑さ続きで、夜の人出が多く、街は好き放題汚されていました



英国日産自動車製造会社(NMUK)はイングランドの北東部、サンダーランドにあります。ここはロンドンからほぼ真北440キロ、北海に面した工業地域で、今世紀初頭には造船や炭鉱で賑わった町です。元飛行場の広大な跡地に同社の工場は建っており、現在、従業員は3000人で、乗用車「プリメーラ」を年間12万台生産、そのうち10万台はヨーロッパ大陸に、その他は台湾、日本へ輸出されています



一九七〇年代の終わりから、世界的な日本車ブームが起り、特に日米間で自動車の貿易摩擦が発生するに及んで、日産ではヨーロッパでも将来同様なことが起こることを見越して、ヨーロッパに生産拠点を探していました。その候補地は数か所から、英国と西ドイツの二か所に絞り込まれました。日産側は、拠点になる国は次の三つの条件を備えていることを望んでいまし

しかし、誇り高き英国のこと。「頼むから来て欲しい」という言葉は最後までなく、むしろローカルコンテンツ(現地部品調達比率)を最低六割以上にす



「英国政府に日産の進出に再生をかける意気込みがひしひしと感じられたから」と、日産自動車取締役森山寛さん

るという条件を出してきました。つまり、日本から部品を持って来て組み立てる、いわゆるスクリーンドライバ工場ではなく、設計開発部門の機能も備えた本格的な自動車会社を作って欲しいという要望でした。

一方、日産側はこの要望に対し三つ懸念を抱いていました。第一にローカルコンテンツ六割以上が果たして可能かどうか。第二は労働問題。一九八〇

Part 2 サッチャー改革 現地レポート

英国労働者に

「英国日産自動車製造会社(略称NMUK)の生産性はひよこすると日本の日産よりも高いのではないだろうか」とサッチャーさんは訪日時のある講演で発言されています。その要因として英国の従業員が自分の仕事に責任を持たされているから、積極的に業務に取り組み、仕事に生き甲斐を感じていることを上げています。辛口発言で知られる彼女から、手放しで褒められたNMUK。一体、NMUKはどんな企業なのかを探ってみました。

NMUK

「マイホームが持てるなんて、夢みたい」とオリアドン夫人



「日本人の女性を妻に持ち、中国人の料理人を雇い、イギリスの住宅に住

最高七〇%の 割引率

公営住宅を マイホームに

た。翌朝は「街が臭い、汚い」と市民からMRSに苦情が殺到しました。この経験を生かして、MRSでは去年清掃要員を増やして、「きれいな夏」作戦を展開し、秋を迎えました。一月、MRSはついにロンドン・イブニング・

スタンダード・マガジンから「ロンドンで働きたい一〇〇の企業」の一つに選ばれました。気を良くしたMRSは、ユニフォームを新調、車を塗り変えてこの夏に備え、世界の首脳に褒められるまでになったのです。

むのが男の理想」というジョークがあるほど、評価の高いイギリスの住宅。そのイギリスでいま、公営住宅の大バザーセールが行なわれています。広告にしてみたら、こんな内容でしょう。

「レンガ造り二階建て、テラスハウス角部屋つき、都心まで三〇分環境秀、緑多く公園に面す、価格・市価の四割四割引き」

運よくこうした家を手に入れた人々がいるのです。

サッチャーさんが政権を取った翌年の一九八〇年から、公営住宅に賃貸で入居している人に、その住宅を払い下げるといふ政策が始まりました。彼女の持論だった、持ち家政策の一環です。この公営住宅買取権制度の現在の条件は、公営住宅を借りて、その住宅に、最低一年以上住んでいる人に、自分の住んでいる住宅を買い取る権利を与えるという制度です。

買取権の対象になる住宅は、地方自治体、ロンドンの区営、ニュータウン開発公社などの所有する、いわゆる公営住宅です。公営住宅買取権制度の最大の魅力は、何といってもその割引率

100万戸を超えた 払い下げ

この公営住宅払い下げは、政府が推進する持ち家政策の一環とはいえ、売主の地方自治体側にとっても、たとえ大割引をしてもメリットがあるのです。売却後の住宅の維持管理経費は、買い手が支払うことになるので、自治体の出費が減り、サッチャリズムの進める地方財政削減政策になるからです。



「買い取った人は賃貸者と区別するために玄関の扉を豪華にします」とフランスワース区の行政局長ポールソン氏

サッチャー政権が始めたこの制度を利用してマイホームを手に入れた人は、今では一〇〇万人を超えています。ロンドンのテムズ河南岸にあるワンズワース区役所の行政局長ポールソン氏によると、初めのころに、買取権行使して家を買った人は、人数もきわめて少なく、低所得者層が多く住む公営住宅団地の隣近所から、「借家人の仁義に反する」と白い眼で見られ、小さくなっていたそうです。ところが最近では、買い取った人が真先に手がけるのは、玄関の扉を豪華にすること。ひと目見ただけで、持ち家が賃貸かの違いが分かるようにするのがそうです。「子供に学資がかかるし、一生のうちに、自分の家が持てるなんて夢にも思っていないでしだ。サッチャーさんのおかげですわ」とレンガ造りの二階建てテラスハウスを、四四%引きで買ったオリアドン夫人はうれしそうに言い、庭の手入れにはげんでいました。



「ハリケーンで壊れた家を、こんな家を持るとは」とオリアドン夫人



トになる可能性もありました。そうすると経営者側は、組合対策にほとんどの時間を取られてしまうわけです。「われわれが雇おうとしている人たちの中には、横断的な職種別労働組合員の資格を持っている人もいます。だけれども、組合に入る権利は認められているから、加入を止めることはできない」というのが同社の職員採用第一番目、人事部長（現取締役人事部長）として入社したウィッケンズさんの意見でした。こうしたことから経営陣は、企業別組合だけを持つことに決定しました。「労働組合が結成されれば、あれこれと要求してくるだろうが、恐れることはない。肝心なことは組合員をきちんと処遇し、整然とした関係を保つこと」というのがウィッケンズさんの労働問題に対する取り組み方です。この組合は、課長以下の全従業員を代表するもので、組合員も企業と相互信頼、相互協力の関係を築き、企業の発展、業績の向上に参画していくという、かつて英国にはなかった性質の労働組合です。



（右）「お陰様で、出世はしたし、もう他の会社に移る気は毛頭ありません」と、課長のサンダーソンさん
（左）年間二万台のプリメーラが製造される組立ライン

いまや、「組合員も企業の業績にまで参加意識を持てるし、労働条件も良いので評判も良く、わが社の組合は他の組合からも尊敬されている」（ウィッケンズさん）ほどで、この労使関係を真似する他の英国企業も増えてきているようです。

同社の従業員も「日産が一番気に入っているのは、新しい仕事に挑戦できることです。それに職場には、一切差別がないし、労働条件はいいし、生き甲斐を感じています」（工長のキャンベルさん）と満足しています。

懸念はすべて杞憂に

事実、組合結成以来、ストライキは一度もなく、また組合レベルで取り上げる紛争も起こっていません。同社がもたらした、働くことへの生き甲斐は、揺るぎないものになりつつあります。

かつて日本の日産が懸念していた労働問題は杞憂に終わったわけです。販売に対する不安も、「プリメーラ」が好調に推移しています。ローカルコンテナについて「今年八割を達成していますが、品質、価格、納期など、予想通りの難しさがあります」（森山取締役）



役と、やや控えめな評価です。また、サッチャーさんが望んだ設計部門も別会社として設立されました。一九八九年からは社長も英国人が務め、社長を含めて九人の経営陣のうち、日本人は二人だけ、また従業員も二〇〇〇人のうち、日本人は二人という陣容になっています。

英国日産自動車製造会社は、まさにサッチャーさんの希望通り、英国の自動車会社」に成長しているのです。



年といえば、サッチャー政権が労働組合問題に手をつけた頃で、労働者が生産活動に積極的に参加し、生産性向上に協力してくれるだろうか。第二に販売の見通しがあるかどうかということでした。

両者は、日本と英国の双方で何度も交渉を重ねた末、ついに一九八六年、生産開始の日を迎えました。開所式にメイン・ゲストとして出席したサッチャー首相はスピーチの中で「ニッサン」という固有名称をなんと二七回も上げたほで、「経営者と労働者の関係が悪いことがイギリスの悩み」という労使の疲弊しきった英国の現状を考えると、日産への期待は切なるものがあつたわけでした。

英国の企業が組合問題で苦勞するのは、賃上げ要求などを掲げて、組合員の投票によりスト権を確立して行う正規のストではなく、いわゆる山ネコストです。山ネコストは全組合員がストに突入するのでなく、たとえば午前中に一〇人が一五分、午後には五〇人が二時間のストライキを行うといった具合で、経営者側にとっては手の打ちようがないのです。当然ながら、生産性の向上、品質の確保は望むことができません。

組合員の経営への参画

サッチャー政権の労働組合対策は、こうした無法な組合運動と全面対決し、法的規制をかけ、断固として闘い抜い

その結果、一九八六年頃には英国全体の労使関係は目を見張るほど改善され、それはまるでサッチャー政権の労働政策がNMUKの後押しをしているかのようでした。

同社経営陣は、スタートに当たって、組合を認めるか、認めないかの決断を迫られていました。認めるにしても、企業別組合にするか、職種別にするかです。

もし、同社が組合を認めないとする

と、従業員はイングリランド北東部英国自動車製造組合に加盟することもあり得るので、同社は組合運動のターゲット

たのです。





Part 3 ジェフリー・スミス氏、 サッチャーを語る レーガン&サッチャー 今なおその波紋は 広がっている



『Reagan & Thatcher』(邦訳『ウーマン・イン・パワー』)の著者であるジェフリー・スミス氏。十一年半のサッチャー政権をジャーナリストとして見守った彼は、サッチャー政権の強さと弱点、執務室での態度、サッチャーとレーガンの個人関係などマスメディアでは浮き彫りにできない隠れたサッチャー像を、彼独特の視点で語ってくれました。

イギリスの 自信回復に ラディカルな 政策を展開

——第二次世界大戦後最長の十一年半も首相の座にあつたサッチャーさんは、イギリス人に何をもたらしたのでしょうか。サッチャーさんの最大の功績は、イギリス人に自信を取り戻させたことです。彼女が首相になった頃、私たちはかなり落ち込んでおり、イギリス国民としての自信を取り戻してくれる強い指導者の登場を待ち望んでいました。サッチャリズム、サッチャー政策の根幹は、国家の衰退に歯止めをかけることだったと思います。つまり、イギリスを強くすることです。

——強いイギリスの復活のために、どんな施策を展開されたのですか。

そのために彼女は、まず労働組合と対決しました。サッチャー以前の政権は、労働組合に恐怖感を抱いており、何とか仲良くし、事を構えたくないと思っていました。ところが



1986年の保守党大会で、イギリスの自信回復を高らかに訴えるサッチャー前党首

「障害なんて 跳ね飛ばせばいい」 が災いした 人頭税での 強硬姿勢

——サッチャーさんが導入しようとして失敗した住民税、いわゆる人頭税はどうして人気がなかったのでしょうか。

人頭税は、地方自治体ごとに全住民が一定額の住民税を納めるもので、理論的には説得力があります。しかし、地方自治体によっては税率があまりにも高かったため、その実行には無理が

ありました。

通常、新しい税制を導入する場合には大蔵省が財政上の協力を行うのですが、この人頭税の導入に反対だった大蔵大臣のナイジェル・ローソン氏が地方自治体への財政援助を一切拒否しました。結果として、自治体によっては政府が想定していたより、高い税率に設定せざるを得なかったのです。

——でもサッチャーさんは、あえて人頭税の導入を強行されたわけですね。

当然ながら、彼女の周囲は人頭税の導入は無理だと、反対しました。政治的にはあの人頭税は、サッチャーさんの最大の失敗です。もし人頭税を導入していなければ、サッチャーさんは今も首相でいたでしょう。

サッチャーという人は、周囲が無理だということを實現することによって、実績を積み上げてきた人です。その障害が大きいほど、彼女はファイトを燃やし、「無理ですって！ 障害なんて跳ね飛ばせばいいんじゃないですか。雑音は無視することですよ」という具合でした。

ところが、人頭税の場合は、その強気が裏目に出たのです。彼女の強みである強引さが命取りになったわけですね。

大臣や官僚には 厳しく接し 秘書や若い 役人には親切



テレビメディアを駆使することにたけていたサッチャー前首相

の人にも、同じことを求めたのでしょうか。

サッチャーさんは、想像を絶するほど確かに良く働き、何事も細かい点まで良く理解しており、そして議論を好む人でした。

ただ、彼女はいつも礼儀正しいとは限りませんでした。秘書や若い役人に対しては親切でしたが、大臣や官僚には相当厳しく接し、政策を完璧に理解することを求めていました。

たとえば、官僚があやふやな返答をすると、徹底的に追求するという具合で、官僚たちはサッチャーさんと一緒に仕事していて心なごむことはなかったようです。

——ではジャーナリストとはどう付き合っていたのでしょうか。

サッチャーさんには、バーネット・インガムという報道官がついていました。彼は、荒っぽく頑固に首相の防壁役を務めていたので、彼女は損をしたところがあるかもしれません。

それにしてもテレビでの彼女のパフォーマンスは立派なものでした。ただ時々気短かで冷静さを欠くこともありましたが。

——テレビといえば、イギリスの議会にはテレビカメラが設置されているようですね。

テレビカメラは上院、下院の両方に設置され、テレビ中継されています。テレビカメラ設置には、賛否両論があり、最初は反対意見が多く、サッチャーさんも反対でした。

主な反対理由は、テレビカメラが入ると、カメラを意識してテレビニュースで扱われそうなドラマチックな質問

彼女は、労働組合は国政に口出しするべきでないと決めつけ、労働争議が発生しても、断固とした対決姿勢を崩しませんでした。次は、国営企業の民営化です。民営化された企業は、サッチャー政権下で力強く成長しました。もう一つは、減税です。個人の所得税の税率はかなり下がりました。働き甲斐のある環境を整えました。



今回のサッチャー前首相訪日では、ホスト役を務められたNTT社長の児島仁氏にサッチャーさんの強さ、優しささらには舞台裏でしか見る事ができないサッチャー像を語っていただきました。



Part 4 日本電信電話株式会社 児島仁社長 インタビュー ジヨンブル魂健在なり

を第一に考えるようになり、議論を尽くすことがなくなるのではないかと懸念していた。しかし、議員全員の投票により設置案が可決されたわけですから、実際にテレビ中継が始めてみると、案ずるより生むは易して、反対派の懸念

するようないことは全くありません。むしろ多くの人が議会では何が議論されているのか、政治に関心を持つようになったのです。非常によい傾向だと私は思います。



レーガン米国前大統領との信頼関係は、1980年代の世界の出来事に多大の影響を与えた

世界平和は ロンとマギーの 二人三脚

——サッチャーさんは「りぶる」十月号のインタビューでも、レーガン米国前大統領のことを、指導者の資質を備えた人と賞賛しています。二人はどのような関係だったのでしょうか。

サッチャーとレーガンは、一九八〇年代の世界の出来事に多大な影響を与え、今なおその波紋は広がっています。二人の信頼関係とその影響力を發揮した最大のものは、何といってもゴルバチョフとの関係構築です。

特に最近では、あのソ連のクーデター事件が起きた朝も、サッチャーさんはレーガンさんに電話をかけ、二人結束してゴルバチョフに友情を伝えようと働きかけています。もし、この二人の関係がなければ、ソ連、東欧の民主化の動きをはじめ、九〇年代の世界は今とは違った姿を呈していたでしょう。サッチャーはレーガンとのかかわりを通して、冷戦時代に終えんをもたらし、世界を動かして来たのです。

——二人をどうまで結び付けたものは一体なんでしょう。

この二人は性格的には決して似ていません。しかし、政治的イデオロギーはきわめて近く、歴代の英米指導者間で、たとえばチャーチルとルーズベルトを含めても、最も近い間柄であったと言えるでしょう。

サッチャーは、英国の威信と自らの政治生命を賭けたフォークランド戦争時の、レーガンの政治決断による協力

今回の来日は 偶然の贈り物

——今回、日本にサッチャーさんをお呼びになった経緯が、聞かせ下さい。

実は、これは全く偶然の贈り物なんです。ちよつとお恥ずかしい話ですが、NTTが目的意識を持ってお呼びしたのではないのです。タイミングもねらったわけではないのです。

昨年の十二月、私が仕事でロンドンに出張した際、作家ジェフリー・アーチャー氏に会ったところ「サッチャーさんは日本に行ってもいいような気分があるのだが、行くとなったらNTTは引き受けてもらえないか」という申し出がありました。即座にOKしましたが、正直を言いますと、そんなに簡単に実現するとは思っていませんでした。そうしましたら、ものの一週間も過ぎないうちに「行きます」という話になったのです。それで慌てて関係各方面にご連絡申し上げる一方、日程の調整に入った次第です。来日時期の方も、これまた偶然に、ソ連のクーデター失敗後の人々の関心が国際情勢に向いている微妙なタイミングに日本に来ていただいたと思っています。日本の聴衆はタイミングとして一番得をしたのではないでしょう。その意味で、天運に恵まれたというか、偶然が偶然を呼んだのでしょうか。

僕はサッチャーさんに来ていただけて大きかったのは、雑誌のインタビューや、テレビを通じたマスメディアに

を忘れていません。逆にレーガンがイラン・コントラ事件により、大統領の支持率が落ち込んだとき、サッチャーはレーガンに対して変わらぬ付き合い、支持を示しました。この友情と支援がレーガンの人気回復を助けたのです。

——他の指導者とはどういう接し方をしたのでしょうか。

ドイツの指導者については、ついぞ親しみは持てなかったようです。シュミット前首相、コール首相もと然りです。お互いに気が合わなかったのです。一方、フランスのミッテラン大統領とはかなりうまくいっていました。フォークランド戦争の時、彼はいち早くイギリスを支持したので、サッチャーさんは感謝しているのです。でも、ジスカールデスタン前大統領とはあまりうまくいっていませんでした。

サッチャーという人は、自分でも言っているのですが人に対して好きか嫌いかを直感的に決めるようです。そして、恩義のある人は大切に、実力のある人は尊敬しています。

——ありがとうございました。

ジェフリー・スミス



影／佐藤 龍

イギリス『ザタイムズ』の政治及び国際のCOMMENTATORを経て、現在フリーランス・ジャーナリスト。ワシントンの国際研究機関で研究生活を送る。



九月一日、歓迎の笑顔の中、五度目の来日
NTT本社玄関にて児島社長と

よる伝達も大事ですが、それよりも一つの会場に一〇〇〇人、一五〇〇人であったとしても、その人たちが生の声を聞く。そして誰かが本音の質問をすると、その答えが返ってくる。これは得がたいことだと思います。おそらくサッチャーさんと直接話した人は数千人を超えていますよ。

「ジョン・ブル魂 健在」を見た

——このたびのサッチャーさんの訪日を実現されたご本人として、九月一日から二〇日までのあの十日間はお心遣いでさぞお疲れになったことでしょう。いえいえ楽しませてもらいましたよ。サッチャーさんは、北海道から大阪まで各地の講演会をいづれもどこでも全力投球。研究所の見学ではずばり専門的なことを本気で質問されるのに驚きました。サッチャーさんご自身が、大勢の日本人と直接話し合うことができて良かったとおっしゃっていました。日本にもサッチャー・ファンが増えたと思いますよ。

——最後の送別会ではサッチャーさんは非常に感動されたそうですね。

あのときは、あらかじめサッチャーさんに「きょうは、緑の下の方を持ちだして、サッチャーさんを送る会をやり

あこがれと願望のようなものを抱いておられる。それを目の当たりにしたわけですから、非常に嬉しかったようです。



田崎真珠にて田崎俊作社長から真珠興の説明を受け、興味深げ



NTT横須賀研究開発センターを訪問

たいのだが、出席していただけです」ということで会を持ったのです。始めは「一時間出ます」と言われたのですが、送別会が全体で二時間にわたることが分かったと、「二時間まるまる出ます」ということで最後まで出席して下さいました。

僕も、これまではフォーマルなパーティーばかりだったので、最後だと思つて一計を案じたのです。東京下町の糺粉細工や切り絵、江戸小物、小さな財布などの売店を、伝統的な衣装をつけた下町の人たちに出示してもらい、各種の模擬店や、お茶の野だてもお見せしたところ、非常にリラックスして楽しんでいただきました。

最後に、お見送りするときのご挨拶の中で私は、「サッチャーさん、あなたのなかには古き良きイギリス精神が脈々と伝わっている。このことを私は肌で感じました。ジョン・ブル魂健在なり。イギリス強し」という感じを強く印象づけられました」と言ったのです。サッチャーさんはあのひどいひどいイギリス病を治すために全身全霊を打ち込んでやって来たわけでしょう。その治療法の根底は、自分で考えた自分の哲学によって、その昔のイギリス精神ともいうべきもの、誇り高きイギリスに戻すということをやってきた。そのことに私はお世辞を言うつもりはありませんでしたが、サッチャーさんもご自分のなさつてこられた事と、私の言葉がびたつと来たのでしょう。非常に感動した顔をされたので、私も嬉しかったのです。

そして、私の挨拶の後、サッチャーさんも非常に喜んだ答礼のスピーチを

これは従業員が責任を持って仕事をし、ものすごく生き甲斐を感じているからだ」と何回も言っておられました。イギリスにもそういう会社が出て来て、そこは成功しているというのを、わがNTTの中にも見たのでしょうか。非常に共感を覚えておられたようです。

して下さいました。みなさんにお礼の言葉を述べて、最後に僕に「ミスター・ブレジデント、このたびはことのほかお世話になりました。今度のホスピタリティは完璧でした。このお礼の気持ちで、ぜひドキュメントに残したい」と思つて、私は手紙を書いて来しました」と言われて手書きの三枚綴りの手紙を私に渡してお帰りになりました。長年にわたつてサッチャーさんのそばにいていいるイギリスの人たちも「サッチャーさんのあんなエモーショナルなスピーチは聞いたことがない」と言われるほどでした。

私、思うのですが、これは何もNTTに対するお礼だけでなく、日本滞在中に各種団体の人たちに真剣に自分の話を聞いてもらい、しかも自分の訴えたいことを理解してもらえたという満足感の現れだったのではないのでしょうか。ですから、これはうちの点数ではなく、日本人がサッチャーさんをきっちり受け止めたことに對する喜びだったと思います。

——NTTの社員の方々も講演を聞かれて、さぞや感慨深かったことでしょう。うちは非常にラッキーでした。うちの若い連中が企画したのですが、サッチャーさんが本社にお見えになるのであれば、幹部だけが会うのではなく、

労使一体の 対応に感嘆

鉄の女には 阿修羅と女性が 共存していた

——十日間も一国に滞在したのは始めてですが、その日本でホストとしてサッチャーさんと接してこられた児島社長の受けた印象を伺わせて下さい。

まあ、これは私の意見ですが、サッチャーさんは最初から鉄の意志の女ではなくて、鉄の意志を持たなければいけないという決意で鉄の意志を貫いているような感じが致しました。たとえば、原稿一つおろそかにしない。一度考えを徹底的に整理したら、どこまでもそれを主張する。政策にしても、考え抜いて決めたら、短期的な敵対行為は問題にしない。中期、あるいは長期の、国家の先のことを考える。そのためには私は強くなければいけないという自己催眠をかけたような感じがしましたね。ものすごさを感じますよ。

まあ、あの強さでないと、世界中から一時冷笑されたイギリス病は治せなかつたでしょうね。ある意味では修羅場型の人でしょう。

しかし、個人として、人間的にはサッチャーさんはこまやかな女性的な人です。今度の件でロンドンの事務所にご挨拶に行ったときも、玄関まで迎えに出てくれて、応接室の椅子に案内し、どこからかクッションを持って来て、パンパンとたたいて「ここに座

現場で働いている人たちもぜひ会いたいと言いつ出したのです。僕は内心、相応心配をしていました。全国から仕事ごとに六チームを集めて、一番若いのは三歳の女性から、上は五〇歳位まで、その人たちに担当する仕事の内容、最も興味を引かれる点、自分なりの提言を発表させたのです。

そうしたら、サッチャーさんはこれがあるのすく面白かつたらしい。あの人は、労使がぎりぎりやつて争うのはもう古い、むしろみんなが汗をかいて、企業を中心にして国を強くしていかないといいけない。平たく言うと、そういう考えの持ち主。従業員も経営者も一体になってやるということに對して、



工業技術院つくば公害資源研究所にて子供たちの歓迎を受けるサッチャーさん

丸井英国フェアのオープニングセレモニーで青井忠雄社長とチーフカット



り下さい。どうぞ」とやられておねえ。すぐお茶は出てくるし、まあ強いばかりでは首相は務まらないのだと思ひましたね。

それからもう一つ、サッチャーさんが日本を勇気づけてくれたと思うのは、歴史的に軍事大国は経済力も強かつた。経済力が強い国は大軍隊を持っていた。常にこれは両方一緒であった。それが世界の歴史上初めて日本だけが、経済大国であつて軍事小国だ。日本は憲法で海外派兵が禁止されている。その立場は良く分かる。だから日本はお金しか出さないことに対して恥じることはない。それだけの義務を果たしているのであるから、胸を張っていいではないかということ私は何回も聞きましては有り難いと思ひました。本当に勇気づけられました。

——今日ありがとうございます。